

ゼミ教員：

## 取り上げた実践 2章 4節 ナミ実践（講義で取り上げたもの以外）

実践での教材（本のまとめ+教材研究を加える・調べたこと+もっと発展した場合）2-4<sup>①</sup>  
<sup>6</sup>

この実践記録は、毎日の「朝のはっぴょう」や、毎月の「パーティーじっこういいん」を通して、自信を持てるように変わっていった小学2年生たちが主人公である。

みんなの前で注目されるのは大好きだが、表情がさえないことが多かったナミ。

大型連休が明け、朝の会を迎えた最初の日に朝の会の発表をバージョンアップすることを伝えた。本の紹介をしたりクイズを出したりし朝の発表がみんなの楽しみになっていった。ある朝、ナミが「お母さんに教えてもらって、おもちゃのチャチャチャを演奏できるようになった。」と絵日記を書いてきた。そこで、みんなの前で発表をするように促した。

演奏を見事に成功させ、みんなから大きな拍手や感想をもらった。

子どもが自信を持つには、結果だけではなく過程をほめ認められる喜びを感じることである。「どんな経過をたどってもとにかく結果を出せば良い」という傾向に陥ってしまうことがあるため、結果を出すために頑張ったことを褒め、認めるのが大切である。

発展した場合は、発表する側に視点を置くだけでなく、見ている側が感想や質問など進んでいえるようにする。

幼・保でやるとすればどのような題材になるか、なにがねらえるか

幼・保では、帰りの会に歌やダンス、工作したものを作り、発表する場（舞台）をつくる。一人で発表ができない子どもには、一緒に発表してくれるお友達がいないか声掛けしたり、援助をしたりする。

それにより、自分の意見として発表ができるようになる。また、お友達の発表を見たり聞いたりし、同じものを作りたいと思えるようになったり、より良いものを考えることができる。

### 参考文献

- ・ <https://matome.naver.jp/odai/2139467397450070801>

実践での教材（本のまとめ+教材研究を加える・調べたこと+もっと発展した場合）  
実践4では、小学校2年生の子が「朝のはっぴょう」をする事で子ども達の自信をつけていくと言う内容です。

朝の会は、時間がない時にはやらなかつたり、省略されたり、朝の会をやらなかつたりと朝の会は、意味があるのかと思うが、朝の会ができる範囲で継続していく事で子ども達を大きく成長させることもできる。

毎回どこの学校でも行われる朝の会は、1朝のあいさつ2健康観察3今日の予定4係らのお知らせ5先生のお話である。また、全校集会や全校朝会などで一部の内容を省略することがよくある。週に何回あるのか分からぬ。

朝の会を行う事で、1日のスイッチを入れ、学校モードになるようにスイッチを入れる。学校に来ていることを意識させることができる。みんなの前で話す経験を積み重ねる。子どもの中には、みんなの前で話すことが嫌いな子もいます。それを朝の会でスピーチする事で少しづつ克服をしていくことができる。係・当番・委員会の活動機会を確保する事で責任感が芽生える。担任が子どもの様子を確認できる。という場である。

子ども達が自分から何かを朝の会でやりたいと言う声があったら率先してやらせてあげる。

幼・保でやるとすればどのような題材になるか、なにがねらえるか

幼稚園・保育園で朝の会をする時間は、朝のうた歌う時と、出席確認、1日の流れを説明する時です。小さい頃から朝の会に慣れると言うことは、幼稚園モード・保育園モードにスイッチを切り替えることができるようになり、小学校では、学校モードにすぐ切り替えられると言うねらいがある。

朝の会で時間があるのなら昨日の食べた物を順番に発表していくと言う発表をすると言う機会を与えてあげることでみんなの前で発表することが楽しいと思える場所になるかもしれない。

#### 参考文献

「朝の会について」 <http://support-sensei.sakura.ne.jp/wp/post-235/>

実践での教材（本のまとめ+教材研究を加える・調べたこと+もっと発展した場合）③

この章では、「朝のはっぴょう」と「パーティじっこういいん」の取り組みについて書かれている。「朝のはっぴょう」では、自分が発表したいことがあつたら発表をするという決まりである。人前で弾いたことがなかつたピアノを披露する子や、親しい友人が転校してしまつたがクラスの仲間と一緒にクイズをする子などがいた。

「パーティじっこういいん」では、12個のグループにわかつて月ごとにパーティを企画する。朝のはっぴょうではなかなか発言することが難しい子もグループの仲間と一緒にパーティを企画する。恥しがり屋な子もクラスの前で漫才を発表し、クラスで発表したり手を挙げたりが出来るようになり自信に繋がつた。

幼・保でやるとすればどのような題材になるか、なにがねらえるか

事例で朝の会の延長で「朝のはっぴょう」をしていたので、幼稚園、保育園でも朝の会や帰りの会など時間が空きそうなときに発表する時間を設けると良いと思った。手の挙がらない子がいた場合は、保育者と一緒に発表をするなどして発表することに慣れさせていくことが大切である。

「パーティじっこういいん」は子どもが自分で考え、企画することは難しいので月ごとにお楽しみ会をする時間を設けて、子どもがしたい事を聞きその遊びをしたり、その月に沿つた話をして季節を感じることが出来るようにしたりすると良いと感じた。

参考文献

④

実践での教材（本のまとめ+教材研究を加える・調べたこと+もっと発展した場合）

自信のない子、おとなしい子どもたちも誰もが発表したいという気持ちを持っている。朝の会での発表やパーティ実行委員を通して、みんなの前で発表することで子ども自らがみんなに伝えたいという気持ちや自信、主体性を育んでいることが分かった。

子どもが今密かに頑張っていること・熱中していることを汲み取っていき、子どもの主体性を大切に言葉掛けをしていく事で子ども自らがやっていこうという気持ちを引き出していく事が大切である。

また、子どもは「自信をもって」と言われるほど自信を無くしていく傾向が見られるので、大人達は子どもは自信がなくてもできることがあるということを受け止めていくといいと分かった。

幼・保でやるとすればどのような題材になるか、なにがねらえるか

朝の会・帰りの会の時間でみんなに発表したいこと・物を発表する時間を設ける。

みんなに自由遊びの時間に作った物を発表することで、次に見せるものはもつといいものを作ろうという意欲や自信につなげていけるようにする。また、おとなしい子やみんなの前で発表することが恥ずかしい子どもにも発表することができるよう、無理はさせないよう発表できるようみんなで発表することや、密かに頑張っていた姿を保育者が代弁していくといいと考えた。

#### 参考文献

・「自信がない」と言う子どもにかける言葉「やる気を引き出すコーチング」

<https://benesse.jp/kosodate/201807/20180702-1.html>

ナミの変化に気づき、朝の発表の方法を全員順番にやっていく方法から、発表したい子が発表していく方法に替えた。ある朝、ナミのピアノ話を聞き、朝の発表で披露する事を薦めると、戸惑いながらも発表することになった。発表してみると、怖いと感じていた男の子から褒めてもらい、自身を持つことができた。

毎日の朝の発表では、みんなの前で発表する力や話を聞く能力をつけてきた。だが、発表者を教師が決めるのではなく、発表したい子がするように段階をあげることで、自分の意思でみんなの前に立ち発表することになり、子どもたちの自信につながる。さらに、発表後にはほかの子どもたちからの感想や評価を聞くことで、クラスのみんなに認めてもらえたと感じることができ、学校に来るのが楽しくなる。

もっと発展すると、たとえば高学年の場合、パワーポイントとを使った発表にすると、パソコンの使い方はもちろん、聞き手に向けた発表になっていくと考える。中学年ではその前段階として、紙芝居や新聞などを作って発表するのもいいと思った。

幼・保でやるとすればどのような題材になるか、なにがねらえるか

小学校低学年の子達と同じように活動できると思う。ただ、展開の仕方を変え、もっと掘り下げていく面白いと思う。たとえば、虫を捕まえたと発表があれば、図鑑で調べてみたり、季節の虫を調べてみたりするのも面白いと思う。そうすることで、ただ季節の虫に触れ合うよりも、子ども発信で始まった活動になるので活動に対する意欲も高まり、理解が深まると考える。

#### 参考文献

ロイロノート <http://n.loilo.tv/ja/LNScase154>

人は、周りに認められたり、出来ることが増えたりすることで自信がつきやすい。だが、まずその自信をつけることがとても難しい。それは、大人も子どもも同じである。第2章実践4では、興味のある事や得意技があり、「見てもらいたい」「知ってもらいたい」と思つても、なかなか自信を持つことが出来ず「うまく表現することができない」「周りと関係を築くことが出来ない」という悩みを持ったさまざまな子どもたちが、人とかかわり、共感、共有することで自信をつけることができたというのである。そして、その子どもの思いにいち早く気付き、自信を持つことのできる場をつくることに努力している子ども思いの保育者について触れていた。そのなかでも、上記で挙げた得意技以外にクイズや漫才を通して例2のRさん、例3のYさん、例5のHさんのようなクラスになじむための一歩を踏み出す勇気・自信を持つことを難しく、「恥ずかしい」と感じる子どもたちに触れる保育者の頑張りが一番の見どころであると考える。

今回の題材の「朝のはっぴょう」と「パーティじっこいいん」は、クラスのなかで生まれた気持ちのすれ違いや、一人一人の心の内に秘めた思いから生まれた確執に気付いた保育者の考え方であった。

結果、「朝のはっぴょう」を始めたことで一度着いた自信から周りとの関係性が広がり、さらに「パーティじっこいいん」と言う活動のおかげで自分から行動するようになったり、休み時間に集まりながら、大きく成長するきっかけになった。

また、もっと発展させる場合、気付いたことやさらにこうしていきたいと感じることについて振り返るのも大切ではないかと考える。

#### 幼・保でやるとすればどのような題材になるか、なにがねらえるか

幼稚園、保育園でも似たようなはっぴょうを行っている姿を見たことがある。自分の好きなこと・ものや、出来るようになったこと、今挑戦していることなどをみんなの前で発表することで、自信につながることである事は上記の事から伝わることだろうと思う。

また、そこからみんなと共感・共有し、繋がることもできる。さらに、ここでうまれたブームがあれば、活動として取りあげることも良いのではないだろうか。みんなで同じ事に取り組むことで、クラスの関係性も深まるし、更なる自信につながり、またみんなと一緒にできる「何か」を見つけたいという意欲を高めることができると思う。

#### 参考文献